



# 学校だより

校訓  
自立  
貢献  
信頼

学校教育目標

- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・健康に努める生徒

希望を胸に未来へ前進する学校

令和8年5月1日 生徒数 911名



## 目を閉じて、深呼吸をして

校長 金子 二郎

目にも鮮やかな新緑の五月となり、心地よい風が頬を撫でてくれます。半袖でも汗ばむ日があったかと思うと、朝晩には冷え込んで4月上旬のような気温に戻る日もあります。校庭からは昼休みや放課後に生徒の元気な声が校長室へも届きますが、一人一人に目を向けると疲れ気味なのか体調を崩している生徒も見られます。保護者や地域の皆様におかれましてはお変わりございませんでしょうか。また、昨年度に引き続き、本校の教育活動に対してご理解とご協力をいただいていること、心より感謝申し上げます。



私にとってもこの一か月は本当にあつという間でした。もしかしたら小学校からの異動のために例年以上に速く感じているのかもしれませんが、そもそも「人生のある時期における時間の心理的長さが年齢に反比例して短く感じられる」というジャンネーの法則のとおり、自身の老いのせいかもしれません。ただその分を差し引いても、社会の変化は年々そのスピードが増しているようです。センセーショナルな事

件や出来事がメディアで報じられても、翌週には後日談が取れ上げられることもなく、全く話題にすらならないニュースも少なくありません。雑誌や新刊本を買おうと思って書店を訪れると、発売日から数日しか経っていないのに店頭から片付けられています。お笑い番組をご覧になる方も少なくないと思いますが、私が学生の頃に「THE MANZAI」としてブームに火が付き、その後M-1やR-1、THE Wやキングオブコントとどんどん進化してきました、漫才や落語の「話芸」というよりも「お笑い」という表現が一般的になると同時に、メディアで活躍する若手芸人さんの入れ替わりが本当に速くなってきていると驚か



されます。翻って中学校生活はどうでしょうか。中学校はその3年間で子供が将来、社会のフルメンバーとして立派に活躍するための力を身に付ける場です。私たち教員も同じ社会人として、3年間という与えられた時間の中で結果を出さなければなりません。その一方で教育基本法のうたう「人格の完成」という教育の目的は、年齢の別なく誰もが皆その一生をかけて目指すものです。特に十代前半の子供たちにと

っての毎日はかけがえのないものであり、じっくりと時間をかけて様々な体験を通して見分を広め自分を高めていってほしいと、大人なら誰もが願うところではないでしょうか。ややもすると大人が社会の変化のスピードに流されてしまうことのある中で、ぐっとこらえて焦らずに忍耐強く子供を見守り、たとえわずかでもその変化を期待し続けることの方が、結局は一人一人の子供の健やかな成長にとって近道なのかもしれません。一中生の輝くような素敵な笑顔が「そんなに慌てないで」と私に教えてくれているような気がしてきます。



指導の基本は本人が気づくための時期を待つ (羽生善治)